



次代を拓く

国内はもちろん、世界にも通じる静岡県の「ものづくり」。
 新技術や新分野で期待される県内企業として、
 医療分野への参入で“次代を拓く”「協同組合HAMING」を紹介する。

中小企業4社の力を結集して医療分野へ新規参入

職人技を機械化して手術用鋼製器具を製造

ものづくりのまち・浜松。しかし、リーマンショック以降、製造業を支える中小企業が厳しい経営環境に立たされている。そこでかつての活力を取り戻そうと立ち上がったのが「協同組合HAMING」だ。背景には下請けの仕事から脱却して自力でニーズを掘り起こす狙いがある。

同組合の結成前、浜松市にある「橋本螺子株式会社」の社長・橋本秀比呂さんは、軽量高硬度で錆びない特性を持つチタンに着目して「チタン事業化研究会」に参加。その活動の中で、地域のビジネスマッチングのイベントにサンプルを出展したところ、医療機器メーカーから試作品の依頼を受け、医療分野への進出を決意する。しかし、医療機器製造業許可なども取得して体制を整えたものの、1社の単独参入では限界があると考え、以前からチタンの応用に関心を持っていた「橋本エンジニアリング株式会社」「有限会社岩倉溶接工業所」「株式会社榛葉鉄工所」に声をかける。こうして平成24年、浜松市の中小企業4社による「協同組合HAMING」が誕生し、静岡県が成長分野のひとつとして支援する医療機器製造分野へ進出することになった。

同組合は大阪の医師から依頼された肛門鏡を皮切りに、さまざまな医療機器の開発に着手。職人技に頼っていた手術用鋼製器具の製造を機械化することで量産化を図る一方、理学療法士の声を拾って、床ずれを防止する寝返り補助機を試作するなど、福祉・介護分野への進出も目指している。現在は、医療関連企業とのマッチングやマーケティング戦略を練り上げながら、医療現場にある声を丁寧にすくい上げ、細かなニーズに対応しようとしている。中でも注目を集めているのは東京のデザイン会社と開発を進めている折りたたみ式軽量電動車イスだ。パーソナルモビリティ（一人乗りの移動機器）を歩行補助器の延長線として捉え、福祉や介護に役立てようという試みだ。同組合の事務局長・中嶋裕嗣さんは「浜松には輸送機器のノウハウを持つ企業がいくつもあります。そうした賛助企業を募ることで、4社を核とした輪を広げ、浜松地域全体の発展につなげたい」と語る。“やらまいか精神”が根付く浜松エリアで新しいエネルギーが結集しつつある。



協同組合HAMINGが製造した
ステンレス製の手術用鋼製器具・特殊鉗子。



医療機器製造の突破口となったステンレス製の肛門鏡。



展示会での一コマ。右から榛葉貴博さん（榛葉鉄工所）、橋本秀比呂さん、岩倉義典さん（岩倉溶接工業所）、橋本裕嗣さん（橋本エンジニアリング）。



HAMINGとは浜松医療先進グループ（Hamamatsu Medical Innovative Group）を意味する。

■ Company Data

協同組合HAMING事務局

静岡県浜松市南区飯田町155 橋本螺子(株) 飯田工場2F 電話:053-468-5815

<http://www.haming.wrng.jp/>